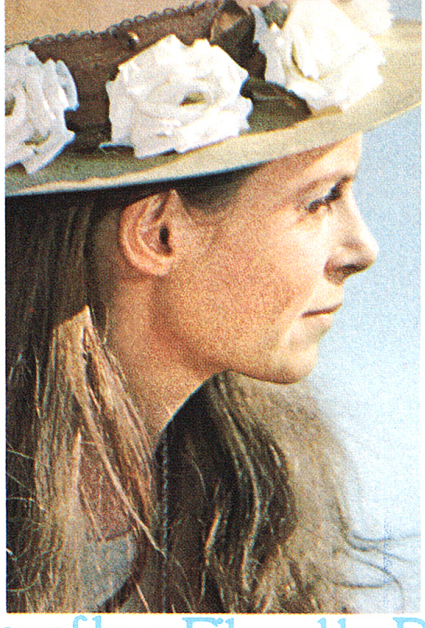










A story of love Filmed by David Lean

Ryan's Daughter

巨匠デビッド・リーンが熱情を注いだ4年間
〈アラビアのロレンス〉の雄大さと
〈ドクトル・ジバゴ〉の愛が
この華麗なドラマに結晶した！

沈む夕陽の最後の輝きの中で、
あの人は逝ってしまった……
美しい大自然の中に溶けこむ
哀しい愛の旋律〈ロージーのテーマ〉

メトロカラー＆パナビジョン

ライアンの娘

MGM映画超大作

ロバート・ミッチャム／クリストファー・ジョーンズ／サラ・マイルズ／トレバー・ハワード

〈ドクトル・ジバゴ〉のアカデミー賞スタッフ／音楽モーリス・ジャール／脚本ロバート・ボルト／撮影フレディー・ヤング

主題曲 MGMレコード

東劇
東京都中央区築地四丁目一番一号
電話(541)二七一一

ライアンの娘



スタッフ

製　　作……アンソニー・ハブロック・アラン
監　　督……デビッド・リーン
オリジナル脚本……ロバート・ボルト
撮影監督……フレディー・ヤング
音　　楽……モーリス・ジャール
美　　術……スティーブン・グライムズ
　　ロイ・ウォーカー
衣装デザイナー……ジョスリン・リッカーズ
第二班監督……チャールズ・フレンド
第二班カメラマン……ボッブ・ヒューク
編　　集……ノーマン・サベジ

キャスト

チャールズ・ショーネシー……ロバート・ミッチャム
コリンズ神父……トレバー・ハワード
ロージー……サラ・マイルズ
ランドルフ・ドリアン…クリストファー・ジョーンズ
マイケル……ジョン・ミルズ
トム・ライアン……レオ・マッカーン
ティム・オリアリー……バリー・フォスター

イギリスが生んだ不世出の巨匠デビッド・リーン監督が、「ドクトル・ジバゴ」以来四年半ぶりで世に問う注目の映画である。

第一次世界大戦後、イギリスからの独立運動が、武力蜂起にまで高まろうとしているアイルランドの、首都ダブリンに近い海辺の一寒村が舞台である。

この反英の世相の中で、夫を敬愛しながらも、若いイギリスの守備隊長を熱愛せずにはいられない、女の業とも言うべき人妻の不倫の恋を描いて、リーン監督が、「逢びき」以来はじめて、ひたすら愛の問題に打ち込んだ、彼の代表作の一つに数えられる傑作である。

脚本は、「ドクトル・ジバゴ」（アカデミー脚色賞）や「アラビアのロレンス」などのロバート・ボルトのオリジナルで、リーン監督と絶えず打ち合わせながら、約一年がかりで完成された。

撮影は、「ドクトル・ジバゴ」「アラビアのロレンス」（アカデミー撮影賞）などの名手フレディー・ヤングの監督の下、アイルランドの南西部、大西洋に突出したディングル岬で行われた。

一九六八年の秋、デビッド・リーンは、ロケハンでディングル岬の先端に立ち、歴史の進歩の跡が少しも感じられない荒涼たる風景を見て、即座に絶好のロケ地と確信した。その時から約半年、この荒々しい不毛の海岸に、完全なアイルランドの村が建設され、六九年の二月下旬に撮影に入った。

作曲には「ララのテーマ」（「ドクトル・ジバゴ」）のモーリス・ジャールが当り、衣装は「欲望」のジョスリン・リッカーズのデザイン。編集のノーマン・サベジは「ドクトル・ジバゴ」「アラビアのロレンス」でも手腕をふるった。

製作者は「ロミオとジュリエット」のアンソニー・ハブロック・アラン。彼は、かってリーン監督らと共にシネギルド・プロを作り、「逢びき」「大いなる遺産」をはじめ、同監督の初期の名作の数々を生んだ有能な人である。

この映画は、去る十一月九日、ニューヨークのジーグフェルド劇場でのワールド・プレミアに引続き、同劇場及びロサンゼルスのパシフィック・ビバリー劇場（十一月十七日から）でロードショウに入り、さすがはデビッド・リーンと、多大の感銘を与えている。

七〇ミリ・メトロカラー、一九七〇年度作品。

（三時間二七分）

名匠が描くこの《愛の衝撃》に内外の凄い反響が……

■淀川長治さん〈映画評論家〉
名作を一頁一頁読みふけった楽しさ

■品田雄吉さん〈映画評論家〉
ふかく、ゆたかなロマンの世界

■高瀬美登里さん〈OL〉
知らぬ間に涙があふれて……

■草野唯雄さん〈作家〉
比類なき自然とラブシーンの美しさ

■沢野芳子さん〈OL〉
ラストシーンの素晴らしい感動

■朝日新聞〈3/26日付〉
圧倒的な迫力を持つ自然描写

■山本恭子さん〈映画評論家〉
凄く感動的で、そして恐ろしい

■辻本智子さん〈OL・エッソ石油〉
息をのむばかりの華麗さ

■週刊女性〈4/7日号〉
その画面の美しさに目を奪われる

■糸川善夫さん〈学生〉
素晴らしい音楽が感動を深める

■ニューヨーク・マガジン誌
今年、最も満足できる映画

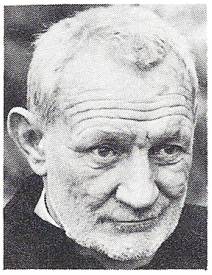
■ロンドンイヴニングニュース評
「ドクトル・ジバゴ」の美しさを持つ偉大な映画


L・マッカーン


J・ミルズ


C・ジョーンズ


S・マイルズ


T・ハワード


R・ミッチャム


リーン監督



なぎさに立ちこめる
かげろうのように
愛は燃え上り
そして消えていく

〈戦場にかける橋〉〈アラビアのロレンス〉〈ドクトル・ジバゴ〉に続いて
名匠デビッド・リーン監督が描く不朽の愛の名篇！

A story of love Filmed by David Lean
Ryan's Daughter

MGM映画/CIC配給

デビッド・リーン監督

脚本 ロバート・ボルト 撮影 フレディ・ヤング 音楽 モーリス・ジャール
〈サントラ盤 MGMレコード〉

ロバート・ミッチャム/サラ・マイルズ
クリストファー・ジョーンズ/トレバー・ハワード

〈カラー作品・パナビジョン〉

ライアンの娘

解説

第一次大戦後、イギリスからの独立運動が、武力蜂起にまで高まろうとしているアイルランドの首都ダブリンに近い海辺の一寒村。

反映の世相の中で、夫を敬愛しながらも、若いイギリスの守備隊長を熱愛せずにはいられない、女の業とも言うべき人妻の不倫の恋が、アイルランドの自然を背景に展開されてゆく……。

イギリスが生んだ不世出の巨匠デビッド・リーン監督（「アラビアのロレンス」「ドクトル・ジバゴ」）の名篇が帰ってきた。〝愛〟の姿を時に厳しく、時にやさしく描き出したこの傑作は、「ドクトル・ジバゴ」でオスカーを受賞したロバート・ボルトとリーン監督のオリジナルで、シナリオの完成までに一年の歳月を費したという。

撮影は「アラビアのロレンス」でオスカーを得たベテランのフレディ・ヤング。彼のカメラによって創り出されたアイルランド南西部にあるディングル岬の美しさは、公開当時マスコミ各紙から多くの賛辞を得ている。また音楽は「ドクトル・ジバゴ」のモーリス・ジャール、衣装は「欲望」のジョスリン・リッカーズ、編集は「ドクトル・ジバゴ」のノーマン・サベージと一流のスタッフが参加している。

出演は「さらば愛しき女よ」「ミッドウェイ」のロバート・ミッチャム。妻の浮気を知り苦悩する教師を熱演している。不倫の恋に走るロージーに「午後の曳航」のサラ・マイルズ、青年将校に第二のジェームズ・ディーンと騒がれたクリストファー・ジョーンズ、この作品でアカデミー賞助演男優賞に輝いたジョン・ミルズと新旧の実力派が火花を散らす競演をしている。

物語

一九一六年、反英蜂起が失敗して間もない頃のアイルランド。独立運動の同志たちは、ドイツから武器弾薬を密輸入しようと、ひそかに準備を進めていた。

大西洋岸の寒村キラリーで教師をしているチャールズ（ロバート・ミッチャム）は、ダブリンの会議から帰ってくると、海岸でロージー（サラ・マイルズ）の出迎えを受けた。

彼はロージーを愛していたが、彼女の二倍もの年令や、男やもめの身を考えて、今までじっと心を押えて来たが、彼女の激しい愛情の前には、それも崩れ去ろうとしていた。

この二人の様子を遠くから見つめていたのは、変り者で通っているマイケル（ジョン・ミルズ）であった。彼もロージーを愛していたので、彼女の心が他の男のものと知って、言い様のない寂しさに襲われた。

それから間もなくチャールズとロージーは、コリンズ神父（トレバー・ハワード）の手で結婚式をあげた。人々の祝福にもかかわらず、彼らの結婚は初めの夜からつまづいた。チャールズが新妻の激しい求愛についていけなかったのだ。他の点では申し分ない夫だけに、ロージーの悲しみは大きかった。それを紛らわすかのように、彼女は忙しく立ち働いたが、それをコリンズ神父に感づかれて、結婚生活の物足りなさを神父に告白した。そしてついに、チャールズと正面衝突してしまった。

こんな彼女の前に現われたのが、若いイギリス士官ランドルフ（クリストファー・ジョーンズ）であった。彼は第一次大戦で負傷した勇士で、キラリーに近いイギリス軍守備隊の指揮官として赴任してきた。

ここにロージーとランドルフの運命的な出会いがはじまろうとしていた……。

スタッフ

製作　アンソニー・ハブロック・アラン
監督　デビッド・リーン
オリジナル脚本　ロバート・ボルト
撮影　フレディ・ヤング
音楽　モーリス・ジャール
（サントラ盤MGMレコード）
編集　ノーマン・サベージ
美術　スティーブン・グライムズ
ロイ・ウォーカー

キャスト

チャールズ　ロバート・ミッチャム
コリンズ神父　トレバー・ハワード
ロージー　サラ・マイルズ
ランドルフ　クリストファー・ジョーンズ
マイケル　ジョン・ミルズ
トム・ライアン　レオ・マッカーシー
ティム・オリアリー　バリー・フォスター

